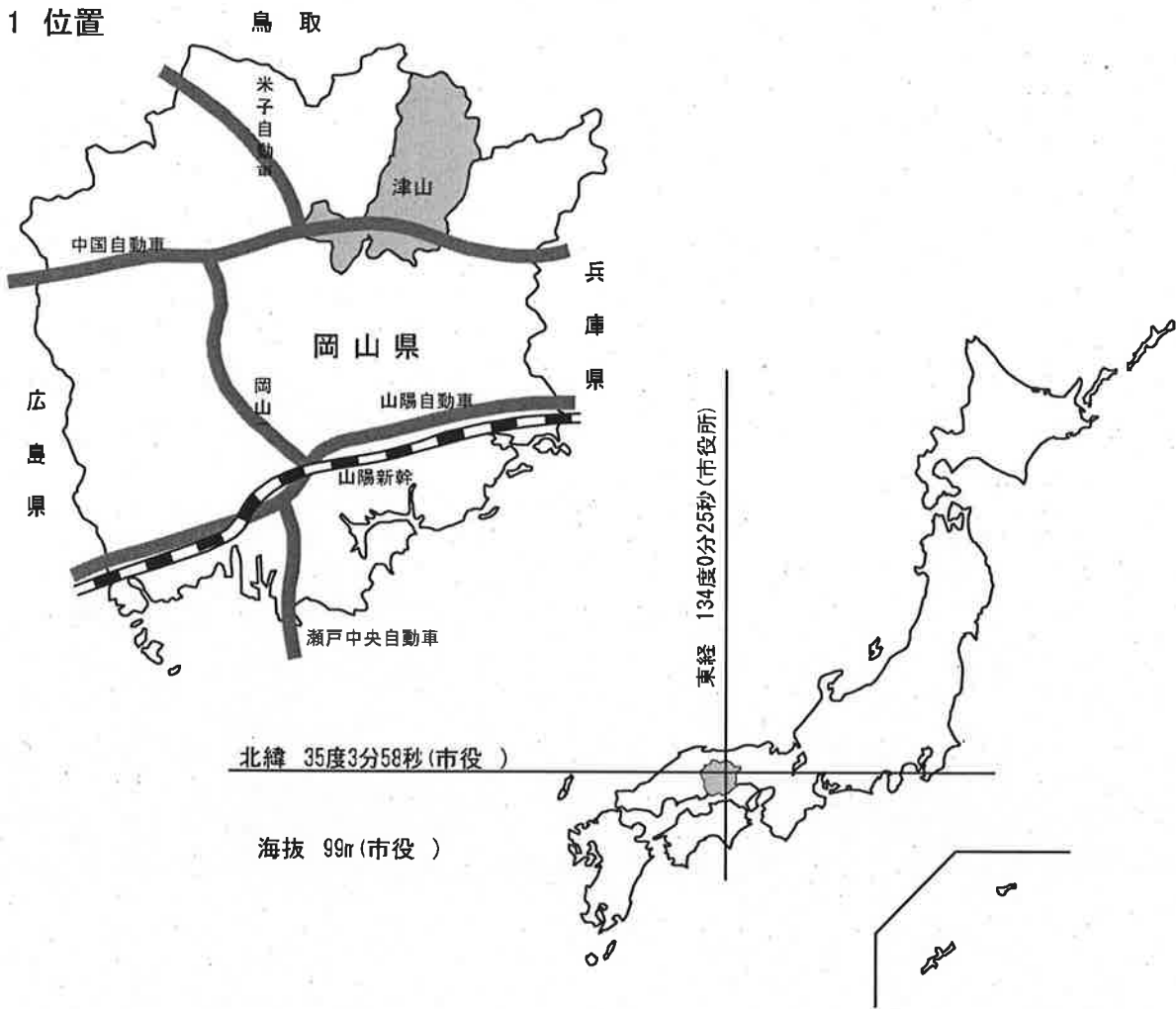


# I 自然と歴史

## 1 位置



## 2 面積

面積 506.33km<sup>2</sup>

資料 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」

### 3 地目別民有地面積

年 別	田	畑	宅地	山林	原野	その他	計
	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
平成24	5,830.80	1,018.13	2,371.32	17,753.16	659.93	583.30	28,216.64
25	5,808.27	1,015.99	2,379.08	17,599.41	660.87	586.03	28,049.65
26	5,784.60	1,008.66	2,381.79	17,582.35	666.34	597.83	28,021.57
27	5,766.20	1,002.30	2,398.26	17,575.22	672.70	612.65	28,027.33
28	5,742.92	991.00	2,404.16	17,560.44	679.84	631.92	28,010.28
29	5,360.64	773.10	2,412.96	17,853.16	905.41	659.08	27,964.35

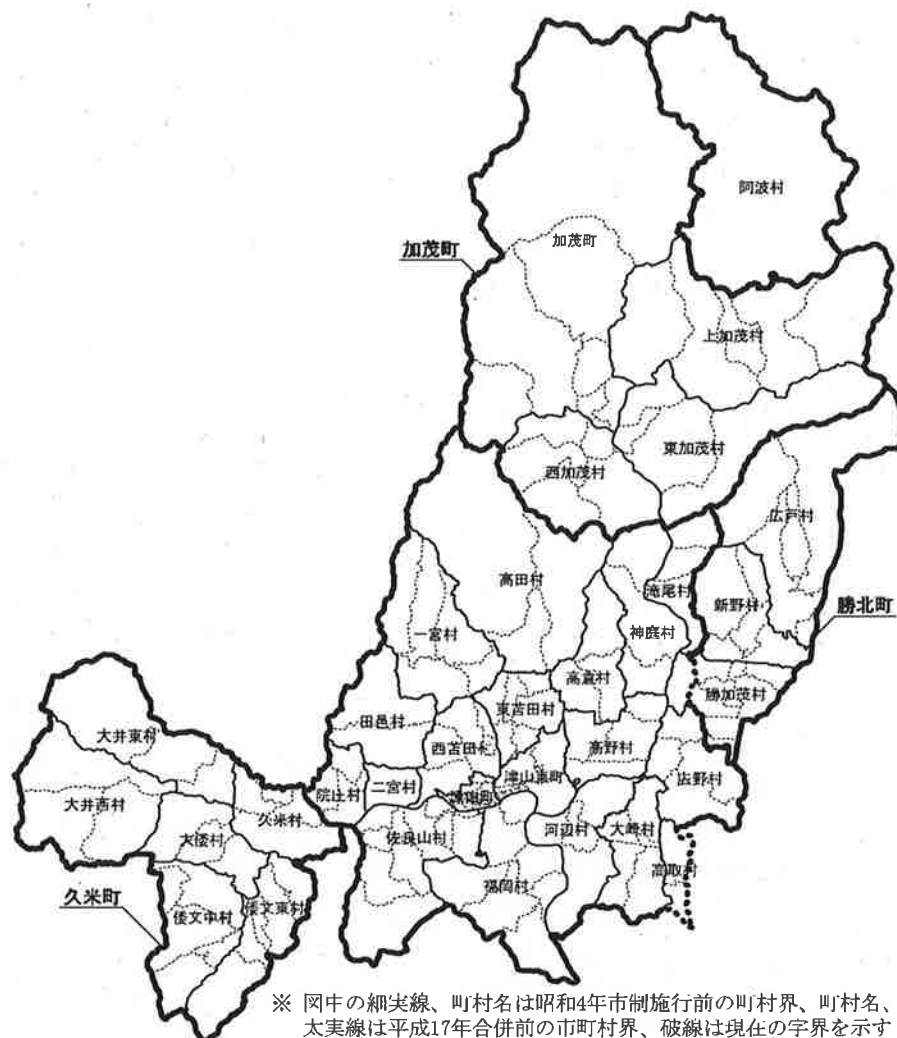
(注) 介在田、介在畑は「その他」に含む

資料 固定資産概要調書

#### 4. 周辺都市との距離・所要時間

対地	鉄 道		陸 路	
	距 離	時 間	距 離	時 間
岡 山	58.7km	普1時間30分	66.0km	1時間30分
姫 路	86.3km	普2時間30分	92.0km	1時間30分(中国自動車道)
大 阪			160.0km	2時間00分(中国自動車道)
鳥 取	73.4km	普2時間20分	75.0km	2時間00分
新 見	71.8km	普1時間40分	70.9km	1時間00分(中国自動車道)

## 5 市域の推移



合併年月日	地 区	合併形式
昭和 4.2.11	津山町・津山東町・西苦田村・二宮村・院庄村・福岡村	市制施行
16.2.11	東苦田村・佐良山村	編入合併
29.7. 1	田邑・一宮・高田・神庭・高倉・高野・河辺・大崎・広野・滝尾の各村	〃
30.4. 1	檜(勝北町)	〃
30.6. 1	池ヶ原・堂尾(勝央町)	〃
平成17.2.28	加茂町・阿波村・勝北町・久米町	〃

## 6 主要な山岳

平成28年3月31日現在  
(単位 m)

山岳名	標高	位置	山岳名	標高	位置
天狗岩	1,196.6	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界	山形仙	791.1	新野山形・奥津川・西上
滝山	1,196.5	大吉・勝田郡奈義町境界	甲山	*777	大吉
三十人ヶ仙	1,171.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界	矢筈山	756.4	加茂町山下・加茂町知和
角ヶ仙	1,152.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界	釈山	753.1	加茂町物見・鳥取県境界
広戸仙	*1,115	大吉・奥津川	入道山	752.3	上横野・苫田郡鏡野町境界
大ヶ山	989.8	加茂町倉見・加茂町知和・阿波	烏山	*701	大篠・吉見・綾部
桜尾山	956.3	加茂町物見・鳥取県境界	寺山	681.6	加茂町青柳・加茂町戸賀・加茂町黒木
公郷仙	*862	加茂町公郷・加茂町下津川	黒沢山	*668	東田辺
大釈山	848.2	加茂町公郷・加茂町知和・加茂町下津川	矢倉山	659.5	官部上・真庭市・苫田郡鏡野町境界
天狗寺山	831.8	大篠・加茂町行重・加茂町成安			

(注)標高数値は、三角点及び標石のない標高点(\*)の値を示した

資料 岡山県統計年報

## 7 主要河川

平成28年3月31日現在

河川名	上流端	下流端	総延長 (m)
吉井川	苫田郡鏡野町	岡山市	133,274
支川	広戸川	津山市	18,045
	加茂川	津山市	38,455
	倉見川	津山市	17,000
	皿川	久米郡美咲町	14,243
	久米川	津山市	12,368

(注) 延長12,000メートル以上のものを掲げた

資料 岡山県統計年報

## 8 ダム

平成28年3月31日現在

ダム名	水系名	完成	目的	集水面積 km <sup>2</sup>	堤高 m	堤頂長 m	最高水位 EL m	総貯水 容量 m <sup>3</sup>	有効貯水 容量 m <sup>3</sup>
黒木ダム	吉井川水系 加茂川支流 倉見川	S43.3	防災 農業利水 上水道 発電	直接 49.2 間接 31.5	53.0	193.0	427.0	6,000	5,075
津川ダム	吉井川水系 津川川	H8.3	治水 河川維持用水 上水道 発電	17.8	76.0	228.0	383.0	5,990	5,450

資料 岡山県統計年報



9 気象概要(津山特別地域気象観測所)

年次	平均気圧 (海面)	気温			風速			平均湿度
		平均	最高	最低	平均	最大	瞬間最大	
	hPa	℃	℃	℃	m/s	m/s	m/s	%
平成24	1,015.2	13.8	34.9	-9.5	2.1	18.3	28.1	75
25	1,015.4	14.0	37.0	-5.0	2.0	13.2	20.3	76
26	1,015.9	13.7	35.2	-5.3	1.9	13.3	22.2	76
27	1,015.6	14.2	36.3	-4.5	2.0	12.6	21.1	79
28	1,015.8	14.7	37.1	-6.9	1.8	11.3	18.9	80

年次	年間 降水量	年間 日照時間	降雪の 深さ合計	現象日数				
				真夏日 1)	熱帯夜 2)	真冬日 3)	雨(≥1mm)	雪
	mm	h	cm	日	日	日	日	日
平成24	1,350.0	1,766.3	42	67	3	1	113	50
25	1,608.0	1,930.3	21	72	0	0	103	48
26	1,381.0	1,710.7	11	41	1	0	110	41
27	1,638.5	1,807.1	14	42	1	0	118	82
28	1,668.5	1,717.9	23	57	0	1	118	53

(注) 資料不足数値には ] を付した

1) 真夏日=最高気温30℃以上日数

2) 熱帯夜=最低気温25℃以上日数

3) 真冬日=最高気温0℃未満日数

資料 気象庁気象統計情報

10 歴史 — 主要年表 —

年号	西暦	主なことがら
4世紀頃		○ 美和山1号墳など大型前方後円墳が美作に築造される
和銅6年	713	○ 備前の国から、6郡を分離して美作の国とし、いまの総社に国府をおく
応保2年	1162	○ 高野神社隨身立像が制作される
元弘2年	1332	○ 後醍醐天皇が隠岐遷幸の途中、美作院庄に滞在し、児島高德が忠心を奉上
天文23年	1554	○ 中山神社を拠点に土一揆
慶長8年	1603	○ 森忠政が美作に入封。18万6,500石を領する
元和2年	1616	○ 津山城が完成、城下町がつくられる
寛永10年	1633	○ 美作の人口が検される。(士卒14,020人 神官・僧侶・山伏689人 農民167,302人 商民14,349人)
明暦3年	1675	○ 森長継、城北に城の後園を営み、ご対面所と称す(衆樂園の始め)
元禄11年	1698	○ 松平長矩が津山に入封。10万石を領する
享保11年	1726	○ 津山藩内に、山中一揆おこる
天保9年	1838	○ 津山藩が讃岐小豆島の6村を領する
明治2年	1869	○ 津山藩主松平慶倫が版籍を奉還し、藩知事となる
明治4年	1871	○ 津山藩が廃され、津山県となる ○ 美作一円、北条県となる
明治8年	1875	○ 津山の総人口が15,164人となる
明治9年	1876	○ 北条県が岡山県に合併される
明治21年	1888	○ 津山～岡山間の電信が開通
明治22年	1889	○ 町村制による津山町が発足
明治28年	1895	○ 津山中学校が開校
明治31年	1898	○ 中国鉄道の津山口～岡山間が開通
明治36年	1903	○ 津山高等女学校が開校
明治43年	1910	○ 津山電気会社が操業開始(点燈戸数1,442戸)
大正4年	1915	○ 津山高等裁縫学校(現美作高校)が開校
大正9年	1920	○ 第1回国勢調査を実施。人口29,905人
大正10年	1921	○ 津山町立津山商業高等学校(現津山商業高校)が開校
大正12年	1923	○ 作備線の津山～追分間、中鉄の津山口～津山間が開通
大正14年	1925	○ 国勢調査を実施。人口31,576人(第2回)
大正15年	1926	○ 津山基督教図書館が開館
昭和3年	1928	○ 因美線の津山～加茂間が開通
昭和4年	1929	○ 市制施行(津山町・津山東町・西苫田村・二宮村・院庄村・福岡村が合併)初代市長に小沼敬三郎氏が就任。人口33,361人 市域面積38.5km <sup>2</sup>
昭和5年	1930	○ 作備線の津山～新見間が全通 ○ 国勢調査を実施。人口34,159人(第3回) ○ 私立津山技芸学院(現作陽高校)が大谷に開校
昭和7年	1932	○ 津山市章を制定 ○ 因美線の津山～鳥取間が全通
昭和9年	1934	○ 市庁舎が落成 ○ 上水道の給水を開始
昭和10年	1935	○ 国勢調査を実施。人口36,092人(第4回)
昭和11年	1936	○ 姫津線の津山～姫路間が全通
昭和15年	1940	○ 国勢調査を実施。人口35,111人(第5回)
昭和16年	1941	○ 東苫田村と佐良山村を編入。市域面積61.6km <sup>2</sup> ○ 岡山県立津山工業高校が開校
昭和18年	1943	○ 津山気象観測所が林田丹後山に開設
昭和19年	1944	○ 津山保健所が椿高下に開設
昭和20年	1945	○ 吉井川が氾濫し、市の中心部は大損害を受ける

年号	西暦	主なことから
昭和22年	1947	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地方自治法が公布され、初代公選市長に和田義一氏が当選</li> <li>○ 畜産指導農場が大田に開設</li> <li>○ 臨時国勢調査を実施。人口51,571人(第6回)</li> <li>○ 津山市消防団を結成</li> </ul>
昭和23年	1948	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山児童相談所を開設</li> </ul>
昭和25年	1950	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国勢調査を実施。人口51,645人(第7回)</li> </ul>
昭和26年	1951	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山市社会福祉事務所が発足</li> <li>○ 郷土館が開館</li> <li>○ 国立津山療養所が開設</li> <li>○ 作陽短期大学が開校</li> <li>○ 美作短期大学が開校</li> </ul>
昭和27年	1952	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山市教育委員会が発足</li> </ul>
昭和29年	1954	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 田邑村・一宮村・高田村・神庭村・高倉村・高野村・河辺村・大崎村・広野村・滝尾村を編入。人口80,616人 市域面積181.9km<sup>2</sup></li> <li>○ 津山市立高等学校(現津山東高校)が開校</li> </ul>
昭和30年	1955	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 檜・堂尾・池ヶ原を編入。市域面積185.64km<sup>2</sup></li> <li>○ 「広報つやま」第1号を発刊</li> <li>○ 国勢調査を実施。人口80,883人(第8回)</li> </ul>
昭和33年	1958	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界連邦平和都市宣言</li> </ul>
昭和35年	1960	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国勢調査を実施。人口78,549人(第9回)</li> <li>○ 津山市新市建設計画を策定</li> </ul>
昭和36年	1961	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市営プールが竣工</li> </ul>
昭和37年	1962	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全都市宣言</li> </ul>
昭和38年	1963	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国立津山工業高等専門学校が開校</li> </ul>
昭和39年	1964	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山伝染病隔離病舎組合を設立</li> </ul>
昭和40年	1965	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 沖縄県平良市と姉妹都市縁組</li> <li>○ 文化センターが落成</li> <li>○ 国勢調査を実施。人口76,007人(第10回)</li> </ul>
昭和41年	1966	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山市立高等学校が県に移管され、県立津山東高等学校として開校</li> <li>○ 作陽学園大学が開校</li> </ul>
昭和42年	1967	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美作女子大学が開校</li> </ul>
昭和43年	1968	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 院庄工業団地の造成が完了</li> </ul>
昭和44年	1969	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山広域市町村圏が設定される</li> <li>○ 津山市勢振興計画を策定</li> <li>○ 長野県飯田市と市政提携</li> </ul>
昭和45年	1970	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山圏域衛生処理組合が発足</li> <li>○ スポーツセンターが完成</li> <li>○ 国勢調査を実施。人口76,368人(第11回)</li> </ul>
昭和46年	1971	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市民憲章を制定</li> </ul>
昭和47年	1972	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツ振興都市宣言</li> </ul>
昭和48年	1973	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山圏域消防組合が発足</li> <li>○ 国分寺工業団地の造成が完了</li> </ul>
昭和50年	1975	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 綾部工業団地の造成が完了</li> <li>○ 草加部浄水場が完成</li> <li>○ 中国自動車道の吹田～落合間が開通</li> <li>○ 国勢調査を実施。人口79,907人(第12回)</li> </ul>
昭和51年	1976	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 岡山県津山総合体育館が落成</li> <li>○ 東苫田民俗資料館が開館</li> <li>○ 東部運動公園を設置</li> </ul>

年号	西暦	主なことから
昭和52年	1977	○ 統合により、津山東・北陵中学校が開校 ○ 津山市総合計画を策定
昭和53年	1978	○ 草加部工業団地の造成が完了 ○ 洋学資料館が開館 ○ 公共下水道建設に着手 ○ 市立図書館が開館
昭和54年	1979	○ 統合により、鶴山・津山西中学校が開校 ○ 市の木「くすのき」、市の花「さつき」を制定(2月11日市制記念日) ○ 青少年健全育成都市宣言
昭和55年	1980	○ 国勢調査を実施。人口83,136人(第13回)
昭和56年	1981	○ 高野工業団地の造成が完了 ○ 島根県出雲市、長崎県諫早市と三市友好交流都市提携 ○ 津山婦人青年の家が完成
昭和57年	1982	○ 文化基本構想を策定 ○ 大規模農道の野村～久米町間が開通。(22.2km) ○ 新市庁舎が完成 ○ 総合福祉会館が完成 ○ 障害者福祉都市に指定される ○ 文化振興事業基金を設置
昭和58年	1983	○ 津山スポーツ振興基金を設置 ○ 人権尊重都市宣言 ○ 中国縦貫自動車道が全線開通(吹田～下関間542.6km) ○ 市立図書館移転整備 ○ 作州ふるさと観光センター完成 ○ 津山圏域衛生処理センター完成 ○ 黒沢山自然公園完成 ○ 津山食肉流通センター完成 ○ 津山圏域雇用労働センター完成 ○ 西吉田住宅団地完成
昭和59年	1984	○ 弥生の里整備、高床倉庫・堅穴住居復元 ○ 教育相談センター鶴山塾開設 ○ 草加部工業団地第2期造成が完了
昭和60年	1985	○ 香川県土庄町と歴史友好都市縁組 ○ 非核兵器平和都市宣言 ○ 福祉ボランティアの町づくり事業(ボラントピア)に指定される ○ 国勢調査を実施。人口86,837人(第14回)
昭和61年	1986	○ 津山市新総合計画を策定 ○ 中道中学校が開校 ○ 市民憲章全国大会を開催
昭和62年	1987	○ 津山市資源化センターが完成 ○ 津山国際総合音楽祭を開催
昭和63年	1988	○ 郷土博物館が開館 ○ 津山国際交流車いす駅伝競走大会を開催(以後平成10年を除き毎年開催) ○ 初の女性議会「ひまわり議会」を開催 ○ 津山中核工業団地の造成が完了
平成元年	1989	○ 市制60周年記念式典開催 ○ 県立酪農試験場が閉場 ○ 津山東体育館完成

年号	西暦	主なことから
平成2年	1990	○ 市街地再開発ビル「アリコペールしんざ」完成
		○ 勤労者総合福祉センター完成
平成3年	1991	○ 「おかやま社会保険センター・つやま」完成
		○ 地域づくり全国交流会議を開催
		○ 第2回津山国際総合音楽祭を開催
		○ 津山弥生の里文化財センター完成
		○ 国勢調査を実施。人口89,400人(第15回)
平成4年	1992	○ 城東むかし町家(旧梶村邸)完成
		○ ゆとり宣言
		○ 津山広域事務組合設立
		○ 公共下水道一部供用開始
平成5年	1993	○ 津山市総合斎場完成
		○ 丹後山団地完成
		○ 新津山警察署が林田で業務開始
平成6年	1994	○ 津山市が「潤いのあるまちづくり」優良地方公共団体を受賞
		○ 交通安全都市宣言
		○ 津山文化振興財団が発足
		○ 津山コミュニティ学院開校
		○ 作州城東屋敷が開館
平成7年	1995	○ 津山圏域が地方拠点都市地域に指定される
		○ 初の津山子ども議会開催
		○ 作州民芸館が開館
		○ 第3回津山国際総合音楽祭開催
		○ 違法駐車防止条例を施行
平成8年	1996	○ 岡山県津山陸上競技場完成
		○ 障害者福祉施設「神南備園」完成
		○ 市街地再開発ビル「アイ・ふきや」完成
		○ 美和山古墳公園が開園
		○ 津山第一浄水場完成
平成9年	1997	○ ソシオー番街オープン
		○ 国勢調査を実施。人口91,170人(第16回)
		○ ごみ非常事態を宣言
		○ 岐阜県兼山町と歴史友好都市縁組
		○ 津山いきいきプラン21(津山市第3次総合計画)策定
平成10年	1998	○ 行財政改革大綱を策定
		○ 都市計画道路「新錦橋・押入線」が全線開通
		○ 津山市東京事務所開設
		○ 第4回津山国際総合音楽祭開催
		○ 津山観光センターの新築移転工事が完了
平成11年	1999	○ 津山市が、国のテレトピア構想のモデル地区に指定される
		○ ふれあいプラン(津山市障害者計画)策定
		○ 家庭ごみ処理有料化をスタート
		○ 津山市国際化推進プラン策定
		○ 津山総合流通センターが完成
	1999	○ 津山地区農業共済事務組合設立
		○ 台風10号による集中豪雨により、市内各地で大損害を受ける(浸水家屋約3,300戸)
		○ 県北初の都市型公園「グリーンヒルズ津山」オープン
		○ 市の花に「さくら」を追加制定(2月11日市制記念日)

年号	西暦	主なことから
平成12年	2000	○ 津山市観光ビジョン策定
		○ 市街地再開発ビル「アルネ・津山」完成。市立図書館、市立文化展示ホール、津山男女共同参画センター「さん・さん」、音楽文化ホール・ベルフォーレ津山を併設
		○ 情報公開制度実施
		○ 市内循環「ごんごバス」運転スタート
		○ 第5回津山国際総合音楽祭開催
		○ アメリカ・サンタフェ市との友好交流都市確認書に調印
		○ 保健・福祉・医療の拠点施設「新津山中央病院」オープン
		○ 新消防庁舎オープン
		○ 国勢調査を実施。人口90,156人(第17回)
		平成13年
○ 市立南児童館開館		
○ 津山駅前広場整備		
平成14年	2002	○ 津山城備中櫓復元整備工事開始
		○ 津山市コミュニティセンター開館
		○ 津山市西苔田公民館開館
		○ 津山地域任意合併協議会設立
平成15年	2003	○ 国道53号津山バイパス開通
		○ 津山地域合併協議会設立(津山市、加茂町、阿波村、勝北町、中央町、久米町)
		○ 第6回津山国際総合音楽祭開催
平成16年	2004	○ 「美作国分寺跡」国史跡に指定
		○ 合併協定書に調印(津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町)
		○ 世界地方都市十字路会議開催(サンタフェ市、ベルサイユ市、ライデン市ほか国内地方都市の参加)
		○ 台風23号の暴風により、家屋、山林に大被害。観測史上最高の最大瞬間風速50.4mを記録
平成17年	2005	○ 加茂町、阿波村、勝北町、久米町を編入。市域面積506.36km <sup>2</sup>
		○ 津山城備中櫓復元整備工事竣工
		○ 国勢調査を実施。人口110,569人(第18回)
		○ 晴れの国おかやま国体開催(柔道全種別、剣道成年男女、ハンドボール成年男子、軟式野球成年、ゲートボール(デモンストレーション))
平成18年	2006	○ 「しあわせ大国つやま 津山市第4次総合計画」を策定
		○ 「地産地消センターサンヒルズ」オープン
		○ 新加茂農業集落排水施設供用開始
		○ 津山広域バスセンター完成
平成19年	2007	○ あば温泉にチップボイラー完成
		○ 衆楽公園駐車場完成
		○ 城西公民館開館
平成20年	2008	○ 第7回津山国際総合音楽祭開催
		○ 戸島学校食育センターオープン
		○ 津山すこやか・こどもセンターオープン
		○ 納税よびかけセンター開設
平成21年	2009	○ 森林基幹道美作中央線全線開通
		○ 市政施行80周年記念式典開催
		○ 津山圏域資源循環施設組合設立
		○ 勝北統合保育所「勝北風の子こども園」開所
平成22年	2010	○ 都市計画道路「総社川崎線」林田～川崎間(1.2km)開通
		○ 新津山洋学資料館オープン
		○ 新天神橋完成・開通
		○ 加茂町公民館改築オープン
		○ 国勢調査を実施。人口106,788人(第19回)

年号	西暦	主なことがら
平成23年	2011	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東日本大震災への支援</li> <li>○ 第8回津山国際総合音楽祭の開催</li> </ul>
平成24年	2012	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都市計画道路「大谷一宮線」の全線供用開始(5.54km)</li> <li>○ 津山市教育委員会発足60周年記念式の挙行</li> <li>○ 久米公民館開館</li> <li>○ 東京スカイツリーへ江戸一目図屏風の複製を展示</li> </ul>
平成25年	2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「津山市中心市街地活性化基本計画」の内閣総理大臣認定</li> <li>○ 美作国建国1300年記念事業の実施</li> <li>○ 城東地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定</li> <li>○ 観光立市宣言</li> <li>○ 津山市土地開発公社の解散</li> </ul>
平成26年	2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 草加部学校食育センターオープン</li> <li>○ 津山東公民館開館</li> <li>○ 養護老人ホーム「ときわ園」移転新築</li> <li>○ 宮古島市との姉妹都市縁組50周年</li> <li>○ 第9回津山国際総合音楽祭の開催</li> </ul>
平成27年	2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ つやま産業支援センターオープン</li> <li>○ 津山圏域クリーンセンターの熱回収施設、リサイクル施設が完成</li> <li>○ 津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定</li> <li>○ 農産物直売所・勝北マルシェ「ほほえみ彩菜」オープン</li> <li>○ 国勢調査を実施。人口103,746人(第20回)</li> </ul>
平成28年	2016	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山市公共施設白書の公表</li> <li>○ 「津山開花宣言 津山市第5次総合計画」を策定</li> <li>○ 津山まなびの鉄道館オープン</li> <li>○ 清泉公民館開館</li> <li>○ みどりの丘保育所完成</li> </ul>
平成29年	2017	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津山駅北口広場整備完了</li> <li>○ 津山城下町歴史館オープン</li> <li>○ 津山まちなかカレッジオープン</li> <li>○ 第10回津山国際総合音楽祭の開催</li> </ul>